

超モノづくり部品大賞

お問い合わせ

モノづくり日本会議 モノづくり部品大賞 事務局

TEL.03-5644-7608 FAX.03-5644-7209 <https://award.cho-monodzukuri.jp> e-mail:buhin@media.nikkan.co.jp
〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (日刊工業新聞社内)

太古の時代から大地に根を張ってきた巨木。

黒風白雨、自然の猛威にさらされても

変わることなく立ち続けてきた。

大樹が豊かな自然を育み、

小さな部品が豊かな未来を築く。

自然から学ぶ不朽のモノづくりを。

MONODZUKURI



2019年 募集要項

応募締切 2019年(平成31年)6月28日(金)

主催：モノづくり日本会議 / 日刊工業新聞社 後援：経済産業省 / 日本商工会議所 / 日本経済団体連合会



モノづくり日本会議

モノづくりへの挑戦

モノづくり日本会議とは企業の規模、業際の垣根を越えた約1900社が集結した組織です。わが国モノづくりの可能性を再確認すると同時に、日本がモノづくり立国であることを国民の共通認識とし、人口、環境、資源などの厳しい制約に対応できるモノづくりのパラダイムシフトを促進、新しい価値創造に基づく「MONODZUKURI」文化の醸成を図ることを目的とします。

MONO DZUKURI

2019年

超モノづくり部品大賞

日本のモノづくり産業は少子高齢化、大都市部への集中と地域社会の疲弊、新興国の台頭による国際的な産業構造の変化の中で、モノづくり力の維持・強化、付加価値の高いモノの供給が大きな課題となっています。日本の産業界は機械や電機、自動車から生活関連に至るまで、数多くの優れた製品を生み出しています。こうした完成品を支えているのが、最終製品の機能・経済性などを実現する部品や部材です。

モノづくり日本会議と日刊工業新聞社は、日本のモノづくりの競争力向上を支援するため、産業・社会の発展に貢献する「縁の下力持ち」的存在の部品・部材を対象に「超モノづくり部品大賞」を実施しています。

2019年で16回目となります。03年に「モノづくり部品大賞」として創設し、08年から現名称となり、現在「機械・ロボット」「電気・電子」「モビリティ関連」「環境・資源・エネルギー関連」「健康福祉・バイオ・医療機器」「生活関連」の6分野を表彰対象としています。受賞部品は15年間で累計約540件にのぼります。

日本の産業界には、災害に強い国土の形成や環境・エネルギー問題の解決、さらなる顧客満足度の向上などに向けて、新しいモノづくりが求められています。

技術革新や新市場創造には、優れた部品や部材が欠かせません。日本のモノづくりに寄与する卓越した部品・部材を広く募集いたします。

●募集期間 2019年3月1日～6月28日

●審査期間 2019年7月～9月

●発表 選定結果は2019年10月、日刊工業新聞と日刊工業新聞電子版、モノづくり日本会議HPで発表予定

●表彰 優秀部品30件程度に「部品賞」を授与し、賞金を贈呈します

「部品賞」の中で特に優秀と認められたものには「部品大賞」を贈ります。
選定の「部品大賞」には賞金30万円、「部品賞」には賞金10万円を贈ります。
「部品大賞」など特に優れた部品を対象に、開発企業の想いや部品の特徴を紹介する映像を制作し、贈賞式などで上映します。
贈賞式は東京都内で開催します。昨年の様子は日刊工業新聞電子版をご覧ください。
(<https://www.nikkan.co.jp/articles/view/00500907>)



募集概要

対象

完成品を構成する部品・部材

- ① 機械・ロボット
- ② 電気・電子
- ③ モビリティ関連
- ④ 環境・資源・エネルギー関連
- ⑤ 健康福祉・バイオ・医療機器
- ⑥ 生活関連

※ いくつかの部品が組み込まれたモジュールやユニットあるいはモジュール・ユニットに組み込まれている部品も対象。食品や化学品などに特定の機能を付加した部材も対象。
※ 環境関連については、当該部品・部材を組み込むことで環境負荷軽減などが図れるもの。さらに、当該部品の開発・生産においてCO₂の削減など、優れた環境負荷低減技術を実現しているものも含まれます。
※ 生活関連は、衣食住に関わる製品を構成する部品・部材。

開発時期

2018年1月以降に開発終了・製品化されたもの。ただし部品の開発がそれ以前でも、その部品を組み込んだ完成品の製品化が同年同月以降であれば該当することとします。

対象となる要件

上記の条件を満たす部品で、次の項目のいずれかに該当するものを応募部品の対象とします。

- ① 独創的な発明で国内外で反響の大きかったもの
- ② 画期的な発明でなくとも、その後の研究改良により、精度や性能などが世界最高水準に達しているもの
- ③ 至難とされていた技術上の問題を解決し、わが国産業界技術の向上に貢献するとみられるもの
- ④ 産業・社会の発展に役立つ先導的役割を果たしているとみられるもの

※上記、原則として販売・納入実績のあるものとします。

外国からの技術導入に基づくものは審査対象としませんが、独創的な改良が加えられている場合はその限りではありません。

日刊工業新聞社が主催、または共催している贈賞制度で受賞した部品は原則として対象外です。

推薦と評価

応募に際しては、大学や公的研究機関の研究者、あるいは取引先企業などの推薦や評価を原則添付してください。

※ご提出いただいた申請書、推薦・評価の書類は本賞の審査においてのみ使用し、外部には一切公表致しません。

審査

日刊工業新聞社・NPO法人ものづくり生命文明機構の審査会が審査します。審査アドバイザー6氏には、審査にアドバイスをいただきます。

審査アドバイザー

稲崎一郎氏	(中部大学理事・名誉教授)	〈機械・ロボット〉
益一哉氏	(東京工業大学学長)	〈電気・電子〉
小口泰平氏	(芝浦工業大学名誉学長)	〈モビリティ関連〉
谷口正次氏	(資源・環境ジャーナリスト)	〈環境・資源・エネルギー関連〉
赤池学氏	(ユニバーサルデザイン総合研究所所長)	〈健康福祉・バイオ・医療機器〉
石田秀輝氏	(東北大学名誉教授)	〈生活関連〉

応募

申請書は郵送または電子メールでご提出下さい

e-mail : buhin@media.nikkan.co.jp

- 概要・応募用紙をダウンロードしてください。
- 過去の受賞部品一覧(第5回以降のテキストと写真)もご覧いただけます。
<https://award.cho-monodzukuri.jp>